

JEAC4622-2009 の誤記に関する正誤表及び影響評価結果

【正誤表】

JEAC4622-2009 「原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程」 付属書（規定）2.3.1.3(2)b) 付属書表 2.3.3(b)

頁	誤				正					
	(b) 風下距離が 0.2km 以遠				(b) 風下距離が 0.2km 以遠					
付属書-31	大気安定度	σ_1	a_1	a_2	a_3	大気安定度	σ_1	a_1	a_2	a_3
	A	768.1	3.9077	3.898	1.7330	A	768.1	3.9077	3.898	1.7330
	B	122.0	1.4132	0.49523	0.12772	B	122.0	1.4132	0.49523	0.12772
	C	58.1	0.8916	-0.001649	0.0	C	58.1	0.8916	-0.001649	0.0
	D	37.1	0.7626	-0.095108	0.0	D	31.7	0.7626	-0.095108	0.0
	E	22.2	0.7117	-0.12697	0.0	E	22.2	0.7117	-0.12697	0.0
	F	13.8	0.6582	-0.1227	0.0	F	13.8	0.6582	-0.1227	0.0

【影響評価結果】

本誤記による影響について、他の評価条件を暫定的に設定し、具体的な数値として算出した結果を以下に示す。なお、本評価は、算出した数値の変化を影響として見たものであり、特定の施設を対象とした評価を実施したものではない。

	(誤)	(正)	(主な評価条件)
σ_z [m]	21.4	18.3	大気安定度:D, 風下距離:0.5[km], 風速 0.5[m/s], 建屋巻き込みなし
χ/Q_i [s/m ³]	8.3×10^{-4}	9.7×10^{-4}	

上記の算出結果では、(正)の値を使用した場合に比べて(誤)の値を使用した場合の χ/Q_i (時刻iにおける相対濃度)が15%程度小さくなっているが、

- ・被ばく評価に用いる相対濃度 χ/Q は、毎時刻の相対濃度 χ/Q_i を年間について小さい方から累積した場合(欠測がなければデータ数8,760)の累積出現頻度97%に当たる値をとること(付属書2.3.2.1(5))
- ・D以外の大気安定度のデータについては本誤記による影響はないこと
- ・評価点を放出点と同じ高さ(風下軸上)に設定(付属書2.3.3(5))する場合は、安定な大気安定度(F)のデータの方が χ/Q_i は大きくなりやすい傾向であること

から、影響は限定的である。

なお、JEAC4622-2009 制定後に電気事業者が実施した原子力発電所の被ばく評価においては、全て(正)の値を使用しており、(誤)の値の使用実績はないことを確認している。

以上